

QR Newsletter

第四紀通信

Vol.4 No.3, 1997



八ヶ岳東麓に分布する中期更新世テフラ：鈴木岳雪（都立大）撮影
 （テフラ研究委員会野外巡検報告参照）

Vol.4 No.3

June 1, 1997

1997年大会第3報	2	研究集会のおしらせ	1 2
研究助成等のお知らせ	8	博物館見学会報告	1 3
テフラ巡検報告	9	幹事会報告	1 4
研連国際シンポジウム	1 0	会員消息	1 5

■ 日本第四紀学会 1997年大会（総会，研究発表会） [第3報]

1. 日程

- 1997年8月4日（月）プレ巡検
8月5日（火）一般研究発表・評議員会
8月6日（水）一般研究発表会・総会・（終了後懇親会）
8月7日（木）シンポジウム
8月8日（金）～10日（日）ポスト巡検

2. 会場

北海道大学構内（〒060札幌市北区北8条西5丁目）
北海道大学学術交流会館
大会準備委員長：小野有五（北海道大学大学院地球環境科学研究科）

3. シンポジウム：1997年8月7日，9:00～17:00 北海道大学学術交流会館大講堂

「東アジアから西太平洋へー陸・海・ヒトのテレコネクションー」

オーガナイザー：小泉 格・大場忠道・小野有五（北大）
（発表20分，質疑5分；コメント10分）以下，演題は仮題
シンポジウムの主旨説明：8：50～9：05；小野有五

第一部：「氷床と海洋のテレコネクション」9：05～10：30；座長：小野有五

東南極沿岸地域における最終氷期以降の氷床変動と海水準変動の問題点：森脇喜一（極地研）・
平川一臣（北大）・中田（九大）／太田陽子（専修大）（コメント）
グリーンランド氷床とハインリッヒ・イベントおよび南極氷床：藤井理行（極地研）
氷床モデルと気候変化：阿部彩子（東大）

第二部：「陸と海のモンスーン変動」10：30～12：10；座長：大場忠道

黄土高原のレス堆積：方小敏（蘭州大）／小野有五（北大）（コメント）
最終氷期における風成塵の堆積とモンスーン変動：成瀬敏郎（兵庫教育大）／吉永秀一郎（森林
総研）（コメント）
東シナ海的环境変化：斎藤文紀（地質調査所）
海底コアから見たモンスーン変動：南川雅男（北大）

昼食（12：00～13：30）

湖沼堆積物による過去3.6万年間のアジアモンスーン変動の高精度復元：福沢仁之
日本海コアの暗色層：多田隆治（東大）

第三部：「人の移動と陸と海」14：20～16：25；座長：小泉 格

陸橋と黒潮変動：氏家宏（琉球大）
南西陸橋と人の移動：馬場悠男（国立科博）
宗谷・津軽陸橋からの人の移動：木村英明（札幌大）
動物群の移動：河村善也（愛教大）（コメント）
日本人の起源：尾本恵市（国際日文研センター）（コメント）

まとめ 16：25～16：50

4. 懇親会：開拓使麦酒醸造所ゆかりの赤レンガビアケラーで，生，黒生，ワイン，日本酒など
飲み放題。（5,500円，学生3,000円）。

5. 巡 検（どの巡検もバス使用。コースの一部変更の可能性をお含みおきください）

プレ巡検：日帰り

1. 石狩低地帯の考古学とテフラ-石狩低湿地帯遺跡-

案内者：山田悟郎（北海道開拓記念館），上野秀一（札幌市埋蔵文化財センター）
地形図：札幌（1:20万），千歳，長都，江別，札幌北部（1:2.5万）
コース：8月4日（月）；JR札幌駅北口（集合）-石狩市紅葉山49号遺跡（縄文前・中期砂丘お
よび低湿地遺跡）-江別市後藤遺跡（擦文時代北海道式古墳）-千歳市ユカンボシC15遺跡
（アイヌ文化期低湿地遺跡）-千歳市キウス遺跡（縄文時代後期環状土籠および同期低湿地

遺跡) -千歳市キウス環状土籠-千歳市美々北貝塚(縄文前期) -札幌駅北口解散

集合: 8月4日(月) 午前8時30分(JR札幌駅北口)

解散: 同日午後5時30~6時頃(札幌駅北口)

募集定員: 23名

費用: 概算5000円(バス使用料)

2. 札幌市周辺の古自然環境-200 万年前までの海陸変遷をたどる

案内者: 岡孝雄(道立地下資源調査所)

地形図: 札幌, 留萌(1:20万), 札幌, 石狩, 当別, 月形(1:5万), 石狩, 望来, 太美, 石狩当別, 弁華別, 青山中央(1:2.5万)

コース: 8月4日(月); 札幌大橋付近三日月湖(地震液状化露頭)-茨戸ゴルフ場付近(紅葉山砂丘)-石狩川河口付近(汀線の前進後退)-獅子内土採場(中位段丘堆積物および当別・材木沢層境界)-大沢(伊達山層)-材木沢(下部更新統材木沢層堆積相)-中小屋温泉(当別断層と活構造)-JR札幌駅北口解散

集合: 8月4日(月) 午前8時15分(北海道大学正門, 会場付近)

解散: 同日午後5時30~6時頃(札幌駅北口)

募集定員: 25名

費用: 概算5000円(バス使用料, 昼食持参が望ましいが, 途中購入可)

ポスト巡検: 1泊2日ないし2泊3日

1. 旧石器文化の白滝遺跡群とオホーツク文化の遺跡(8月8日~10日, 2泊3日)

案内者: 右代啓視(北海道開拓記念館), 畑宏明(北海道埋蔵文化財センター)

地形図: 北見, 紋別, 網走(1:20万), 北見峠, 白滝, 旧白滝, 遠軽, 網走, 能取岬, 呼人, 卯内原, 常呂, サロマ湖東部, サロマ湖, 三里浜, 芭露, 登栄床(1:2.5万)

日程, コース: 8月8日(金); JR札幌駅北口, または北大会場付近集合-白滝遺跡群(旧石器)-遠軽町先史資料館(遠間コレクション・旧石器)-網走市(泊)

8月9日(土); 網走市立郷土博物館-網走市立郷土博物館分館モヨロ貝塚館(オホーツク文化と平安海進期)-北海道立北方民族博物館-ところ遺跡の館・ところ遺跡の森-常呂町栄浦(泊)

8月10日(日); 常呂町-旭川市博物館-JR札幌駅北口

集合: 8月8日(金) 午前8時30分(北海道大学正門, 会場付近)

解散: 8月10日(日) 午後5時頃(札幌駅北口), フライト時間等によっては, 旭川下車も可能と思われます。

募集定員: 23名

費用: 概算3~3.5万円

2. 道南の考古遺跡と火山噴出物・活断層(8月8日~9日, 1泊2日)

案内者: 雁澤好博, 木藤典夫(北海道教育大), 阿部千春(南茅部町教育委)

地形図: 函館, 室蘭(1:20万, 巡検地域全体), 陣屋, 茂辺地, 五稜郭, 濁川, 渡島森, 鹿部, 駒ヶ岳, 大沼公園, 川汲, 尾札部(1:2.5万)

日程, コース: 8月8日(金) JR札幌駅北口, または北大会場付近集合-森町鷺の木(1640年駒ヶ岳噴火津波堆積物)-南茅部町(南茅部遺跡)-鹿部町鹿部温泉(泊予定)

9日(土); 鹿部町尻無川(駒ヶ岳噴出物と化石林)-大沼公園-大野町大野川(函館平野西縁断層)-大野町添山(レス質堆積物)-函館山-函館駅-函館市銭亀(Z-Mテフラ)-函館空港

集合: 8月8日(金) 午前8時30分(北大正門前, 会場付近)

解散: 8月9日JR函館駅前16時, 函館空港17時

募集定員: 23名

費用: 概算2.5万円

3. 石狩低地帯南部, 襟裳岬, 十勝平野の第四紀(8月8~10日, 2泊3日)

案内者: 平川一臣(北大地球環境研), 吉田真理夫(北大理学研究所)

地形図: 札幌, 苫小牧, 夕張岳, 帯広, 浦河, 広尾(1:20万), 千歳, 遠浅, えりも, 襟裳岬, 庶野, 広尾, 豊似, 晩成, 忠類, 上札内, 十勝川温泉, 幕別, 糠内, 帯広南部, 渋山(1:2.5万)

日程, コース: 8月8日; JR札幌駅北口, または北大会場付近集合-早来町(支笏, クッタラ火山起源のテフラ, Spflと埋没林)-えりも岬(海岸段丘)-広尾(扇状地礫層とテフラ)-忠類(泊)

8月9日; 忠類-豊似川河口海食崖(最終間氷期以降の海成・河成堆積物とテフラ)-晩成(中

学会からのお知らせ

期～後期更新世の海成段丘とナウマンゾウ発掘現場)-ナウマン記念館- 幕別台地(変動地形、撓曲崖概観)-十勝川温泉(泊)

8月10日;十勝川温泉-帯広市近郊(化石周氷河現象:露頭の制約で観察不可能もありうる)-洪山(前期更新世の熔結凝灰岩)-日勝峠-千歳空港-札幌

集合:8月8日(金)午前8時30分(北海道大学正門,会場付近)

解散:8月10日(日)帯広空港で下車,フライトの時間等を考慮して決めたいと思います。

費用:概算3.5万円

4. 大雪山高山帯は諸般の事情により,中止しました。

申し込み方法:参加をご希望の方は,ハガキまたはFaxで6月25日までに,希望する巡検,氏名,性別,所属,連絡先(住所,電話,Fax,E-mail等)を明記して下記宛お申し込み下さい。先着順に受け付けます。正確な参加費用は申し込み締切り後に通知しますが,予約等の関係上,参加費は原則としてお返しできない可能性が大きいことをあらかじめご承知おき下さい。また,15名以下の場合は,中止になります。

申込先:060 札幌市北区北10西5 北大・地球環境科学研究科 平川一臣 あて
(Fax: 011-747-9780)

6. 事務局

〒060 札幌市北区北10条西5丁目 北海道大学大学院地球環境科学研究科気付
日本第四紀学会1997年度大会準備委員会

7. ホームページ

大会の情報(航空券,宿泊などを含む)等は,随時ホームページで見ることができます。

<http://www.geo.ees.hokudai.ac.jp/QR/second.htm>

■新潟大学理学部自然環境科学科の教員公募について

1. 採用予定職・人員:新潟大学理学部自然環境科学科 地球環境科学大講座 教授 1名
2. 募集分野:水文地質学・第四紀学を柱として,広く環境地質学をカバーしている方。
3. 応募資格:博士の学位を有し,大学院博士前期・後期課程の担当が可能であること。
4. 担当講義等:学部では専門科目として第四紀学・地下水学関連の講義を担当するほか,教養科目の講義も担当する。また,環境地質野外実習なども担当できること。その他,大学院自然科学研究科(前期課程)地球環境科学専攻環境災害科学大講座,及び(後期課程)環境管理科学専攻社会環境科学大講座水循環システム学教育研究分野に所属し,専門の講義を担当する予定。
5. 着任予定:1997年(平成9年)10月1日以後の可能な限りはよい時期
6. 応募書類:
 - (1) 履歴書
 - (2) 業績リスト(レフリー制度の確立された学会誌等に掲載された学術論文,その他の論文,国際会議等の報告に分けてリストを作ること)
 - (3) 主要論文の別刷
 - (4) 教育・研究計画(A4版1~2枚)
7. 応募締切:1997年8月31日
8. 書類の送付先:〒950-21 新潟市五十嵐二の町8050 新潟大学理学部自然環境科学科長 濱口 哲 電話:025-262-6326 FAX:025-262-7536 (書類は書留で送付のこと)
9. 問い合わせ先:
新潟大学理学部自然環境科学科 久保田喜裕
電話/FAX:025-262-753 E-mail:kubota@geb.ge.niigata-u.ac.jp
10. その他の参考事項:自然環境科学科は1994年(平成6年)度に新設された学科で,地球環境科学大講座,環境生物学大講座,物質循環科学大講座の3大講座から構成されている。学生定員30名,教員定員18名からなる。1998年(平成10年)3月に学科として最初の卒業生を送り出す予定である。物理学,化学,生物学,地質科学等の既存の諸学科及び積雪地域災害研究センターとも連携を密にしながら総合的な観点から教育研究にあたっている。
地球環境科学大講座地質関係のスタッフと研究テーマは次の通り。
教授(1998年3月退官予定) 柴崎達雄 地下水収支論,第四紀環境変遷論
教授(1998年3月退官予定) 吉村 尚久 水-岩石の相互作用
助教授 久保田喜裕 資源・環境地質学
講師 卯田 強 活断層・構造地質学

札幌市内宿泊のご案内

- 宿 泊 日 平成9年8月3日(日)～8月7日(木)
- 宿泊条件・料金

(単位:円)

区分 記号	クラス	予 定 ホ テ ル 名	室タイプ	宿 泊 料 金
イ	シティー ホテル クラス	京王プラザホテル 札幌プリンスホテル 他	シングル	13,000～14,000
			ツイン	11,000～12,000
ロ	ビジネス ホテル クラス	札幌アスペンホテル 札幌ステーションホテル 他	シングル	9,000～10,500
			ツイン	8,000～9,500
ハ	エコノミー ホテル クラス	チサンホテル札幌本館 札幌クラークホテル 他	シングル	7,500～8,500
			ツイン	6,500～7,500

*宿泊料金は、ホテル及び部屋タイプにより同一クラスでも異なりますのでご了承下さい。

*ホテルの宿泊料金は、1泊朝食付・税金・サービス料込みのお1名様料金です。

申込み方法のご案内

- 別紙申込用紙に必要事項をご記入の上、ファクシミリ又は郵送にて近畿日本ツーリスト(株)札幌駅前支店宛お送り下さい。
 - 申込締切日 平成9年7月1日(火) **必着**
 - 申込書が弊社に到着しだい受付確認書を送付いたします。
 - 予約内容と料金(振込の案内)を、7月8日(火)～7月18日(金)の間に書面で送付いたします。
- 尚、通信費としてお申し込み1名様につき500円を加算させていただきます。

申 込 み 先

〒060 札幌市北区北7条西4丁目 新北海道ビルディング1階
 近畿日本ツーリスト株式会社 札幌駅前支店
 『1997年度 日本第四紀学会札幌大会』デスク
 担当 : 信原・高橋(知)
 電 話 (011) 716-5522・716-5533
 FAX (011) 716-5501

割引航空券のご案内

弊社では、ご参加の皆様のために、下記のように団体設定便を各方面に設定いたしました。学会特別団体割引を適用致しますので、多数の皆様のご利用をお待ち申し上げます。

《団体利用便》

往 路				復 路			
記号	搭乗月日	区 間	発 時 間	記号	搭乗月日	区 間	発 時 間
A	8/ 3 (日)	東京—札幌	14:00—15:00	a	8/ 7 (木)	札幌—東京	19:00—20:00
B	8/ 3 (日)	関西—札幌	14:00—15:00	b	8/ 7 (木)	札幌—伊丹	18:00—19:00
C	8/ 4 (月)	東京—札幌	14:00—15:00	c	8/ 8 (金)	札幌—東京	12:00—13:00
D	8/ 4 (月)	東京—札幌	17:00—18:00	d	8/ 8 (金)	札幌—関西	12:30—13:30
E	8/ 4 (月)	関西—札幌	14:00—15:00	e	8/ 9 (土)	札幌—東京	17:00—18:00
F	8/ 4 (月)	関西—札幌	18:30—19:30	f	8/ 9 (土)	札幌—伊丹	18:00—19:00
G	8/ 5 (火)	東京—札幌	7:30— 8:30	g	8/10 (日)	札幌—東京	17:00—18:00
H	8/ 5 (火)	東京—札幌	12:00—13:00	h	8/10 (日)	札幌—伊丹	18:00—19:00
I	8/ 5 (火)	伊丹—札幌	8:30— 9:00				

《特別割引片道運賃》

	東 京 — 札 幌	関 西 ・ 伊 丹 — 札 幌
設 定 便	17, 000円	21, 000円
普 通 運 賃	(24, 600円)	(31, 050円)

※上記出発時間は平成9年4月現在の仮ダイヤに基づいております。多少変更になることがありますので、その場合はご了承下さい。

※各指定便10名以上の申し込みがあった場合に限り、この割引が適用されます。

※弊社の集客が10名未満の場合、各特別運賃でご利用頂くために便の変更をお願いする場合がございます。もしくは別途割増料金となりますので、あらかじめご了承下さい。

近畿日本ツーリスト札幌駅前支店宛
〒060 札幌市北区北7条西4丁目 新北海道ビル1階
TEL 011-716-5522 ・ FAX 011-716-5501

1997年度 日本第四紀学会札幌大会
宿泊・航空券申込書

住 所 (予約確認書) 送付先	〒		(勤務先・自宅)		弊社記入欄	
	必ずお手許に届く住所をご記入下さい。				受付 No.	
代表者氏名					申込受付日	年 月 日
電話番号	TEL	-	-	内線 ()	受付確認書 発送日	年 月 日
FAX番号	FAX	-	-		予約回答書 発送日	年 月 日

(ふりがな) お 名 前	性別	年齢	航空機		宿 泊 日							
			往路	復路	記号	種別	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	
例) きんき たろう 近 畿 太 郎	男 女	55	A	c	イ	シングル ツイン	○	○	○	○		
1	男 女					シングル ツイン						
2	男 女					シングル ツイン						
3	男 女					シングル ツイン						
4	男 女					シングル ツイン						
5	男 女					シングル ツイン						
備考												

※航空券：指定便以外の便ご希望の方は割引種別をご記入の上、備考欄にご記入下さい。記入がない場合は通常運賃のお手配となります。

研究助成のお知らせ

■ 「三宅賞」の受賞候補者および研究助成候補者の推薦依頼

地球化学研究協会より「三宅賞」の受賞候補者および研究助成候補者の推薦依頼がきています。自薦・他薦等ありましたら、規定の用紙（庶務幹事に請求）に記入のうえ、7月末までに庶務幹事に提出して下さい。

<三宅賞>

1. 本賞は地球化学に顕著な研究業績をおさめた科学者に贈呈します。
2. 本賞は賞状とし、副賞として賞牌および賞金（30万円）をそえます。
3. 本賞の贈呈は、1年1件（1名）とします。

<研究助成>

1. 研究助成は地球化学の研究者（満40才迄）で、海外における学術調査研究などに参加する者、ならびに海外のシンポジウム等に出席し論文を発表する者に対して行われます。
2. 助成金は1件10万円とし、年に数件とします。

連絡先：〒338 浦和市下大久保255 埼玉大学教育学部 齊藤享治

Tel.048-858-3195, Fax.048-858-3690, E-mail: kyosaito@sacs.sv.saitama-u.ac.jp

■ 日産学術研究助成募集のお知らせ

（財）日産科学振興財団より下記の一般研究および奨励研究「候補者の推薦依頼がきています。申請ご希望の方は、7月末までに庶務幹事（上記）に書類を提出して下さい。

<総合研究・海外共同研究>

1. 「人間－自然環境系」に関する研究
 - 1-a. 再生可能な自然資源の持続的利用と保全に関する研究
 - 1-b. 生態系の保存と自然復元に関する研究
 - 1-c. 自然観・自然認識の成立と変遷などに関する実証的研究
2. 「人間－人工環境系」に関する研究
 - 2-a. 都市環境の人間生活への影響と総合的管理に関する研究
 - 2-b. 環境に適応した人工物の創製および再利用に関する研究
 - 2-c. 科学技術の役割と科学技術観の変遷に関する研究

助成の要件：（総合研究）（1）自然科学に限らず人文・社会科学を含む研究者が、密接な連携のもとに課題解決を目差す学際的なグループ研究であること。（2）研究期間は原則として2～3年とする。

（海外共同研究）（1）主として東南アジアを対象としたフィールドワークによる研究とし、相手国の研究者と十分な事前協議もとづいた具体的かつ明確な研究であること。（2）代表研究者は日本人であり、研究の方法および成果を相手国に還元することを前提に編成された研究体制であること。（3）研究期間は原則として2年とする。

<一般研究・奨励研究>

1. 体系的立場からの人間特性に関する基礎研究
2. 地球表層環境に関する基礎研究
3. 新機能材料の創製、物性・新プロセスに関する基礎研究
4. 生命現象の理解に関する基礎研究

助成の要件（一般研究）（1）おおむね45歳以下の研究者が主体となり、いくつかの専門領域にわたり、緊密な連携のもとに行われる自主的なグループ研究。（2）研究期間は原則として2～3年とする。（奨励研究）（1）若手の研究者（35歳以下）が自ら計画した研究課題を推進する個人研究。特に、1博士号取得後の研究基盤確立の支援となることを重視する。（2）研究期間は原則として1年とする。

<公募要領>

1. 申請方法：（1）総合研究および海外協同研究は、直接当財団助成係に、（2）一般研究および奨励研究は、当財団が指定する学協会（別紙参照）の推薦を要しますので、各学・協会にご申請して下さい。
2. 締切日直接公募および学協会推薦とも、平成9年8月31日（日）までに財団に必着のこと。
3. 申請用紙申請用紙は、研究機関の助成係あるいは推薦学・協会に請求するか（コピー可）、郵送料相当分の切手を貼った返信用封筒を同封の上、助成区分を明記し、財団研究助成係宛請求して下さい。
4. 資料請求・問い合わせ先：（財）日産科学振興財団 〒104 東京都中央区銀座6-17-2
TEL 03-3543-5597 FAX 03-3543-5598 E-mail ar02-ns@t3.rim.or.jp

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇第6回 第四紀学会 テフラ研究委員会 野外集会 報告◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

中里裕臣(農林水産省農業工学研究所)

1997年4月3日～5日の3日間にわたり第四紀学会テフラ研究委員会野外集会が行われた。巡検範囲は日本のテフロクロノロジーの標準地域の1つである大磯丘陵を挟んで八ヶ岳から房総半島に及び、総移動距離は450 kmを越えるものであった。今回の野外集会では、近年急速に研究の進む中期更新世、とくに25万～40万年前の広域テフラに基づく層序・編年に焦点があてられた。中部地方の内陸第四系と南関東の第四系標準層序を結ぶ上での最新の知見や問題点が見学や議論の的となった。案内者は鈴木毅彦(東京都立大学)、杉原重夫(明治大学)、町田洋の各先生で、参加者は総勢49名であった。

第1日目は多摩丘陵北部、八ヶ岳東麓、甲府盆地曾根丘陵と大きく移動しながら、指標テフラTE-5、GoP1を軸とした中期更新世広域テフラの研究の現状と問題点が提示された。箱根火山の影響下にあった南関東では粗粒な両輝石型のテフラが卓越するため、角閃石や黒雲母を含むテフラは珍らしく古くから注目されており、屈折率によるテフラ記載が始められた当初より多摩丘陵(HBP)=大磯丘陵(TE-5)=房総半島(Hy-3)、多摩丘陵(GoP1)=房総半島(GoP1)=八ヶ岳(BBP)などの対比が提案されていた。一方、北信地方で記載された大町APmテフラ群は特異な鉱物組成及び屈折率特性から近年広域に追跡され、給源火道の存在や九州起源のKktとの層序関係が明らかになり、TE-5と対比する意見も出されている。八ヶ岳東麓ではBBP以下の層準においてAso-1相当テフラ(3枚似たものがあり、それぞれの様な意義があるのか論議された)及びKkt, APmテフラ群を観察し、各テフラに関して屈折率特性にとどまらず、主要成分、微量成分等多くのパラメータを駆使した最新の研究が紹介された。夕間迫る曾根丘陵ではTE-5またはAPm類似のテフラと黒富士火山の火砕流堆積物を観察した。観察地点近傍ではAPmテフラ群に対比されるガラス質火山灰が報告されているが、TE-5との層位関係は不明とのことであった。

第2日目はまず富士山の膨大な数のテフラを観察。ATが挟在するほかはスコリアの繰り返しで目立った斜交や休止層準は認められず、立川ローム層に挟まれる数枚の暗色帯の層位や成因が議論された。御殿場市上柴怒田では偶然巡検の準備にこられていた上杉陽先生の解説を伺うことができた。大磯丘陵に向かう途中では中期更新世早期と考えられる足柄層群中の生土火砕流堆積物を観察し、房総上総層群中の諸テフラとの対比及び既知の広域テフラの発見による丹沢山地隆起史の解明の必要性が紹介された。大磯丘陵ではTE-5を含むT-Eテフラ群と下位のTFV(上総層群Ks-5)を観察し、海成面とテフラ累層の

(上総層群Ks-5)を観察し、海成面とテフラ累層の関係が議論された。案内書には海洋同位体ステージ(MIS)と南関東における海成面・テフラ累層との対比試案が示されたが、MIS 9～8にかけての編年には問題が残されており、解決の鍵はAso-1, Kkt, APmテフラ群などの南関東における検出にあるとされた。GoP1が大磯に分布しないこともこの問題を複雑にしている。この後、MIS7の海成層とT-C, T-Bテフラの観察を簡単に行い、予約のある東京湾フェリーに向け、久里浜へ急行。豪華客船の旅付き(?)の巡検となった。

第3日目はおおむね下位から上位へ上総、下総層群のテフラを観察した。上総層群では大阪層群や九州、中部山岳地域などの給源地域との対比が進みつつあるテフラのうちKd38, Ku6c, Ks-22, -18, -11, -10を観察し、下総層群においても広域テフラ対比候補であるJ4(TE-5), Yb1(APm), Yb5(GoP1), Km1(Aso-1を含む)の産状を観察した。MIS 10～9に挟在するYb1との対比はAPmテフラ群の層位を決める上で重要な知見である。また、Aso-1の同定はこれを含むKm1が房総でYb5(GoP1)の上位にあることから八ヶ岳でBBPの下位にあるAso-1相当層の層序関係と矛盾する点が問題提起された。最終地点では乗用車のライトを頼りに崖を降りるほどの時間となり、集会の充実度は参加者の荷物を膨らますサンプルの量からも伺うことができた。

集会案内書はテフラの同定対比にとどまらず給源から堆積様式に至るまでの検討や地形・環境変化との関連について言及されているほか、未公表資料を多く含み、前の週に開催された学会の要旨が引用されるなど、テフラ研究の最先端が感じられるものだった。また宿舎や車中では参加者によるAPmの給源やFT年代測定法などに関する話題提供もあり本集会ならではの醍醐味を味わった。次回以降の企画にも期待を寄せるとともに、企画・解説にご苦労いただいた先生方をはじめとする関係各位にあらためてお礼申し上げます。

(コース概要)

- 4月3日：多摩丘陵—八ヶ岳東麓—曾根丘陵—山中湖泊
- 4月4日：富士北・東麓—足柄—大磯丘陵—房総
- 4月3日：房総半島

■ 第四紀環境変動国際シンポジウムのお知らせ（第2報）

会議名：アジア・西太平洋地域における第四紀環境変動に関する国際シンポジウム

開催期間：平成9年10月14日～平成9年10月17日（4日間）

開催地（会場）：東京都（東京大学本郷キャンパス 山上会館）

主催者など：

- 1) 主催 第四紀環境変動国際シンポジウム実行委員会
- 2) 共催 日本学術会議第四紀研究連絡委員会、日本第四紀学会
- 3) 後援 東京地学協会、日本地質学会、日本地理学会、工業技術院地質調査所

INQUA (International Union for the Quaternary Research), West Pacific Subcommission on Quaternary Shorelines (INQUA Commission on Quaternary Shorelines), SubCommission on the Quaternary Stratigraphy of Asia and Pacific Region (INQUA Commission of Stratigraphy), IGBP-PAGES Japan, IGBP-LOICZ Japan, IGCP 396 (依頼中を含む)

- 4) 開催資金援助団体 日本学術振興会、東京地学協会、福武学術文化振興財団、東京大学など

第四紀環境変動国際シンポジウム実行委員会：委員長；米倉伸之 委員；海津正倫、遠藤邦彦、太田陽子、小野有五、大場忠道、大村明雄、茅根 創、熊井久雄、小池裕子、斉藤文紀、田村俊和

国際シンポジウムの目的：アジア・西太平洋地域における第四紀環境変動に関する研究の現状をまとめ、研究成果を交流し、今後の研究課題を明らかにすることを目的とする。第四紀研究の立場から、自然環境の変動のプロセスとメカニズムが明らかにすることは、人間による環境変化を評価し、現在から近未来にかけての環境資源の利用と管理についての科学的な基礎を得るうえで、大きな貢献をすることが出来る。さらに、アジア地域における国際第四紀学連合の各種の研究委員会の活動を活発にするうえでよい機会となり、アジア太平洋地域における研究者のネットワークを構築する上でも、この国際シンポジウムは重要な役割を果たすことが期待される。

日程とプログラム：第1日から第3日までのセッションでは、外国人及び日本人の招待講演者により、関連する6つのテーマについて研究発表を行う。また、関連するポスター発表を公募する。第4日目には特別セッションとともに今後の研究課題・研究交流について分野ごとに分科会で検討する。口頭発表は招待講演者に限る、一般発表はポスター発表となります。

セッションのテーマ（和文）（コンピーナー名）（セッション英文名）（招待予定外国人）

第1日（平成9年10月14日）

午前 第四紀の高精度層序と編年（熊井久雄）

High resolved Chronostratigraphy and Correlation on the Quaternary of Asia-Pacific Region

招待予定者：Nadja Razjigaeva (Pacific Inst. Geography, Russian Academy of Sciences, Russia), Han Jiamao (Inst. Geology, Chinese Academy of Sciences, China), An Zhisheng (Xian Branch of Chinese Academy of Sciences, China)

午後 東アジアにおけるパレオ・モンスーン変化の復元（小野有五）

High resolution and Multi-proxy approaches of paleomonsoon changes in the Eastern Asia

招待予定者：Li Jijun (Department of Geography, Lanzhou University, China), Cui Zhijiu (Department of Geography, Beijing Univ., China), Fang Xiaomin (Department of Geography, Lanzhou University), Sun Xiangjun (Institute of Botany, Chinese Academy of Sciences)

第2日（10月15日）

午前 海岸動態：デルタと大陸棚の第四紀後期の環境変動（斉藤文紀・海津正倫・Yim, W.S.）

Coastal Dynamics: Late Quaternary changes of deltas and continental shelves

招待予定者：Colin Woodroffe (School of Geosciences, University of Wollongong, Australia), Sin Sinsakul (Department of Mineral Resources, Bangkok, Thailand), Wyss W.S. Yim (Department of Earth Science, The University of Hong Kong)

午後 第四紀後期の海面変化とテクトニクス（太田陽子・大村明雄・Berryman, K.）

Late Quaternary sea-level change and coastal tectonics

招待予定者：John Chappell (Australian National University, Australia), Patrick Nunn (University of South Pacific, Fiji), Kelvin Berryman (Inst. Geol. Nuclear Sciences, New Zealand), Liew Pinmei (National Taiwan University, Taipei)

第3日(10月16日)

午前 サンゴ年輪による西太平洋の古海洋環境(茅根 創・松本英二)

Paleoceanography of West Pacific reconstructed by coral annual bands

招待予定者: Typhoon, Lee (Inst Earth Science, Academia Sinica, Taipei), W. S. Hantoro (Indonesian Inst Science)

午後 西太平洋とその縁辺海の古海洋環境(大場忠道・汪 品先)

Paleoceanography of the West Pacific Ocean and Its marginal Seas

招待予定者: Sergei Gorbarenko (Pacific Oceanological Institute, Vladivostok, Russia), Hi-Il Yi (Korea Ocean Research and Development Institute, Korea), Min-Te Chen (Institute of Applied Geophysics, National Taiwan Ocean University, Taiwan), Pinxian Wang (Department of Marine Geology, Tongji University, China)

第4日(10月17日)

午前 (小会議室) 分科会(各分野における今後の研究交流の検討)

午前・午後(大会議室) 特別セッション サンゴ年輪による古海洋復元(茅根創・松本英二)

(Paleoceanography reconstructed by coral annual bands)

招待予定者(後ほどお知らせします)

成果の公表の方法: 国際シンポジウムの講演要旨集を準備するとともに、各セッションの研究論文をまとめ、国際学術誌などに投稿して、発表する予定である。

参加登録について: (当日参加も可能ですが、準備の都合上出来るだけ前もって登録してください) 氏名、所属、連絡先(住所、電話、ファクス、電子メールなど)、講演希望の有無、講演のタイトル、希望するセッションについて、下記までお申し込みください。

講演の申込: 講演要旨の到着をもって正式の講演申込とします。講演要旨(英語)は、タイトル、発表者氏名、所属のあとに500語前後の本文とし、A4用紙1枚以内。電子メールおよびファクス(郵便)にて下記までお送りください。

講演要旨締切: 1997年7月20日

(プログラム編成の都合上、締切りを変更しましたのでご注意ください)

参加費: 5,000円 (予稿集および懇親会費を含む) (会場にてお払いください)

ホテルの予約申込締切: 1997年6月30日

(原則として外国人とし、日本人は各自で宿舎を確保してください)

参加登録送付先

新川順子 M&J International

241横浜市今宿町2210-2

電話 045-391-7121 ファクス 045-361-9681

電子メール KYE02707@niftyserve.or.jp

実行委員会連絡先(講演要旨送付先)

113 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院理学系研究科地理学専攻 茅根 創

電話 03-3812-2111 内線 4573 ファクス 03-5684-0518

電子メール kayanne@geogr.s.u-tokyo.ac.jp

■ 東京学芸大学自然史ゼミのホームページ

第四紀通信にありましたので、上記ゼミ(小泉研究室)のホームページのURLをお知らせします。

東京学芸大学・院・教育・地理 目代邦康(m961509@u-gakugei.ac.jp)

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~koizumi>

■ 「アジアの水文環境に関する国際シンポジウム」のお知らせ International Symposium on Hydro-Environment in Asia

千葉大学環境リモートセンシング研究センター (CEReS) では、下記の日程で第3回CEReS国際シンポジウムを開催いたします。今回は地域の環境を決定する上で重要な役割を果たしている水文環境、すなわち地域における水循環のあり方を取り上げます。近年の環境問題は国境を越えて広域化の様相を呈していますが、水文環境にはその地域の特質があるため、広域水文環境を理解する上でその地域の環境の特質を明らかにする必要があります。そこでアジア各地における水文環境について、様々な立場から議論を行いたいと考えております。また現場における研究成果と同時に、広域の水文環境を理解するためにリモートセンシング、GISの役割についても議論を行いたいと考えております。多くの方の参加をお願い申し上げます。

千葉大学 環境リモートセンシング研究センター 教授・新藤静夫

日時：1997. 11. 5 (水)、6 (木)、7 (金)

開催場所：千葉大学自然科学大会議室

主催：千葉大学環境リモートセンシング研究センター

論文募集：一般講演論文を募集いたします。テーマはアジア地域の水文に関連した様々な現象を対象といたします。なお、既発表の内容をまとめた論文も歓迎いたします。講演を希望する方は8月29日までに事務局まで氏名、所属、タイトルをお知らせ下さい。E-Mailでも結構です。なお、Extend Abstract (英文4・8ページ) の締め切りは9月30日です。詳細は Second Circular で通知いたします。First Circularを希望の方は事務局まで連絡下さい。

問い合わせ(事務局)：千葉大学環境リモートセンシング研究センター 石山陰

〒263千葉市稲毛区弥生町183 電話043-290-3836, Fax 043-290-3857

E-mail: ishiyama@fsirc.crchiba-u.ac.jp

■ 地学団体研究会 第51回総会のお知らせ

1. 期日：1997年8月1日(金)～8月3日(日)

2. 会場：大阪市立大学 田中記念館、法学部棟
(大阪市住吉区杉本、JR阪和線杉本町駅下車徒歩5分)

3. 日程：

8月1日(金) 10:00～17:00 科学運動シンポ「災害と地質学」
8月2日(土) 9:00～17:00 学術シンポ1「西南日本の中生代～新生代火成活動とテクトニクス」
9:00～17:00 学習会「おいでやす堆積へ！」
13:00～17:00 学術シンポ2「平野の地下地質」
8月3日(日) 9:00～12:00 学術シンポ3「堆積岩の元素組成から何が読みとれるか」
9:00～12:00 学術シンポ4 地質環境問題に対するエンジニアの取り組み
13:00～14:30 記念講演 佐原 真氏(国立歴史民族博物館副館長)
「人と大地—大昔から現在まで—」
15:00～17:00 総会

4. 参加費：無料

5. 記念講演会参加申し込み方法：記念講演は市民に公開しますので、会場の関係上、申し込みが必要です。往復ハガキに地団研大阪総会記念講演会に参加希望と明記し、住所、氏名、年齢、返信用の宛名を書いて、7月4日(必着)までに申し込んで下さい。応募者多数の場合は、抽選となります(店員250名)。申込先、〒546 大阪市東住吉区桑津2-3-1 瀧上芳孝気付 地団研大阪総会記念講演会係 宛。

6. 問い合わせ先：

〒546 大阪市住吉区杉本3-3-1 38 大阪私立大学理学部地球学教室 地団研大阪総会準備委員会
三田村宗樹 電話 06-605-2592, FAX 06-605-2522 e-mail:mitamura@sci.osaka-cu.ac.jp
地団研大阪総会ホームページ <http://www.sci.osaka-cu.ac.jp/~mitamura/>

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 博物館見学会報告

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

行事幹事 山崎晴雄

1997年2月15日（土）、神奈川県相模原市立博物館において、第3回日本第四紀学会博物館見学会を開催した。参加者は14名であった。

今回は午後1時より博物館ホールで参加者の登録受付を行った後、2時までの約1時間、博物館内の展示を自由見学し、その後、2時から4時まで博物館主催による講演会「相模川流域の10万年史一路傍の地学へのお誘い」（講師：東京都立大学名誉教授 町田洋氏）を聴講した。この講演会は博物館の市民講座として行われたため、多数（およそ100名）の人々が参加し極めて盛況であった。

講演終了後、同博物館学芸員の金井憲一氏と町田洋氏の案内で、見学会及び講演の参加者約20名が同博物館の目玉のひとつである火山灰関係の実験・収納施設と地学関係の展示を見学した。熱心な質問も出て盛り上がったが、閉館時間の午後5時となり終了、解散した。

この見学会実施にご協力いただいた、神崎彰利館長、金井憲一氏及び博物館職員の方々、並びに町田洋氏に厚く御礼申し上げます。

（相模原市立博物館への交通案内は第四紀通信4巻1号をご参照下さい。）

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 地球惑星科学 関連学会 合同大会 報告

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

行事幹事 山崎晴雄

1997年3月26日（水）、名古屋大学で開かれた地球惑星科学関連学会合同大会で、日本第四紀学会は第2回目の固有セッションを持ち、シンポジウムと一般講演のポスターセッションを行った。

シンポジウムは、26日午前に「地球規模変動に対する熱帯海岸環境の対応と戦略」(オーガナイザー：海津正倫・茅根創)が行われた。講演者7名（1名欠席）、参加者はおよそ70名で、熱心な講演と討論が行われた。また、シンポジウム講演の後、1人1分の持ち時間でポスターセッションについてショートサマリー発表が行われた。

ポスターセッションは同大学の体育館で行われた。今回はポスター専用時間（その間、講演が行われない）が夕刻に設けられ、また、ポスター展示が大きな会場一カ所にまとめられたため、様々な分野の参加者が第四紀学会固有セッションのブースの前にも現れ、社会に第四紀学の成果を公開する絶好の場となった。ポスターセッション講演者数24名。

なお、この講演要旨は合同大会予稿集に掲載されているが、札幌での次の学術大会の講演要旨集の中に転載する予定である。

（合同大会固有セッションプログラムは第四紀通信4巻1号をご参照下さい。）

■ 地球地図国際運営委員会ホームページのお知らせ

第四紀学の関連機関のホームページとして、国土地理院および同院内にある地球地図国際運営委員会事務局のホームページアドレス(URL)をお伝えいたします。

国土地理院：<http://www.gsi-mc.go.jp/>

地球地図国際運営委員会事務局：<http://www1.gsi-mc.go.jp/iscgm-sec/>

問い合わせ先：津沢 正晴 / 国土地理院 九州地方測量部 〒812 福岡市博多区博多駅東2-11-1
Tel:092-411-7881 (代表) Fax:092-411-7882

[参考] What is Global Mapping ?

Global Map is a group of global geographic data sets of known and verified quality, with consistent specifications which will be open to the public. Global Map is considered a common asset of mankind, and will be distributed worldwide at marginal cost. An organization is needed whose primary purpose is to examine measures that concerned national, regional and international organizations can take to foster the development of Global Mapping in order to facilitate the implementation of global agreements and conventions for environmental protection as well as the mitigation of natural disasters and to encourage economic growth within the context of sustainable development.

■第11回幹事会議事録

日時：1997年4月19日（土） 13:30～17:30

場所：東京大学 理学部 5号館 地理学教室

出席：鎮西清高（会長），米倉伸之（副会長），
坂上寛一・小野 昭，杉山雄一・山崎晴雄・吉
川周作・斉藤享治各幹事，綿引裕子（編集書記，
オブザーバー），山本麻由子（学会センター）

1. 庶務

- (1)世界古代湖会議（6月21日～29日，於：琵琶湖博物館等，主催：世界古代湖会議実行委員会）・地下水技術協会シンポジウム（7月11日，於：日本学術会議）の後援・協賛を承認した。
- (2)第1回選挙管理委員会（水野清秀委員長，叶内敦子，久保純子，福沢仁之，宮内崇裕，山本憲志郎の各委員）を3月1日に開催し，役員選挙の日程を決定した。
- (3)第1回論文賞選考委員会を3月6日に開催し，委員長および論文賞選考の日程を決定した。
- (4)論文賞規定第4条（「受賞候補者」を「受賞者」に），第5条（「会長が推薦し評議員会が承認した5名の論文賞選考委員」を「評議員の投票により選出された5名の論文賞選考委員」に，「連続して2期を超えて選考委員に就任することはできない」を「連続して選考委員に就任することはできない」に），論文賞選考に関する内規4（「選考委員は評議員会で承認を得る」を「選考委員は，会長が専門分野を付記して推薦した10名以上の正会員のなかから評議員の投票により選出される。得票数が同数のときは，専門分野の委員数が少ない者を委員とする。専門分野の委員数も同数の場合は，年長順とする」に），内規6（「欠員が生じた場合は，会長が委員の構成を考慮して後任の委員を指名する」を「欠員が生じた場合は，次点者を補充する」）の改正を，8月5日の評議員会に諮ることとした。
- (5)地質科学の振興を目的とした地質科学関係学協会連絡協議会について，参加する方針で評議員会に諮ることとした。
- (6)地球環境科学関連学会協議会の準備会が3月31日に開催され，協議会の事業・組織・経費等について話し合われた。事業として，シンポジウム，一般向けの講演会，専門家向けの地球環境科学シリーズの出版，協議会のニュース，ホームページの作成が挙げられた。組織については，参加学会から1～2名の委員を出し，協議会を構成するが，当面は，気象学会で事務局を引き受けることが了承された。事務局運営経費については，当面，参加学会の分担を特に予定していないことが，確認された。第四紀学会としては，参加の方針で評議員会に諮ることとした。
- (7)内規集の原稿をほぼ整備した。

(8)第四紀学会の名入りの封筒の原案（A4判用と定形用）を作成したが，1998年2月に郵便番号7桁になるので，その時期に合わせて，封筒を作成することとした。

2. 会計

- (1)3月31日現在の収支は，とくに問題がない。
- (2)第四紀露頭集の3月末販売状況は約1500冊で，入金284万円，未回収約100万円である。
- (3)第四紀露頭集の販売促進のために，日本考古学協会および考古学研究会への広告掲載を，小野幹事に依頼することとした。また，六一書房に販売委託することを決めた。
- (4)最近の次期繰越金の推移は，318万（91年），171万（92年），275万（93年），381万（94年），266万（95年），176万（96年見込み）で，93年度は会費値上げ，94年度は阪神淡路大震災の報告集の売上で繰越金が多くなったが，それ以外は支出の多い状態が続いている。95年度の大規模繰越金減の主な理由は，印刷費約100万円の増加と刊行補助金66万円のカットによる。96年度も，露頭集の売上にもかかわらず，繰越金が少なくなりそうである。97年度では露頭集の売上は落ち込むので，97年度以降の収支のバランスをどのようにして保つか，検討が急務である。

3. 編集

- (1)第5回編集委員会（3月5日）では，原著論文20篇，短報3篇の編集状況を検討した。このうち，新着は原著論文2篇，短報1篇である。原著論文5篇が今回受理された。現在，受理論文6篇で，36巻2号と36巻3号に掲載予定である。36巻2号については印刷にかかりつつある。
- (2)入会案内と入会手続きのカードを第四紀研究に入れることとした。
- (3)第四紀研究のA4判化について検討した。
 - ①A4判採用の理由
官公庁の公文書のA4判化に伴い，各種の学術雑誌がA4判化されてきている現状で，第四紀研究においても，いつかA4判化する必要がある。また，他のA4判化された学術雑誌と第四紀研究を比べると，文字・図表が小さくて読みづらい。読みやすい図表・文字にするにはA4判化が必要である。
具体的には，現在のB5判では，8ポ，25文字・46行（1ページ2300文字），幅14.7cmであるが，A4判では，9ポ，27文字・51行（1ページ2754文字），幅17.5cmに変えることができる。2段組の片段の幅がB5判の7.0cmからA4判の8.2cmになり，図表が大きくなるのが大きな利点である。
 - ②A4判化に伴う印刷費・ページ数等の変化
印刷費については，日本印刷に見積もってもらった結果，36巻1号ではB5判で107.1万円，

A4判で119.5万円であった。年5冊なので、年約60万円の増額となる。ページ数は、同号の74ページが、68(あるいは66)ページとなる。発送費については、第三種郵便は、50gまで60円、50gを超え1kgまで50gまでごとに8円増となっている。B5判の第四紀研究36巻1号は165gで送料84円であった。A4判では68ページくらいであるが、類似のA4判の地質学雑誌71ページでは220gで送料92円である。送料全体の増額は、送付先2100を掛けた金額16800円となる。毎回8円増となるわけではないので、5回のうち3回8円増として、年約5万円の増額となる。発送用封筒はB5判用からA4判用に変更になるが、経費に変化はない。

③投稿規定・執筆要項の改訂について
A4判化の時期にあわせて、改訂できるように検討している。

これらの資料をもとに検討した結果、資料を整理しながら、学会の財政状況・運営方針(第四紀研究、第四紀通信、ホームページの関係など)を考えながら総合的に検討しなければならないとのことで、37巻からのA4判化は無理と判断した。ただし、近いところでA4判化するというのを8月の評議員会で語り、将来検討委員会を設置するなどして、次期幹事会で検討してもらうこととした。

4. 行事

- (1)博物館見学会を年2月15日、相模原市立博物館において開催した(参加者14名)。博物館内の自由見学ののち、博物館主催の講演「相模川流域の10万年史」(講師:町田洋)があった(聴講者約100名)。講演後、学芸員の金井氏と町田氏の案内で、参加者約20名が火山灰関係の実験・収納施設と地学関係の展示を見学した。
- (2)地球惑星科学関連学会合同大会が3月26日、名古屋大学で開催され、日本第四紀学会は固有セッションをもち、シンポジウムとポスターセッションを行った。シンポジウムは、26日午前に「地球規模変動に対する熱帯海岸環境の対応と戦略」(オーガナイザー:海津正倫・茅根創)が行われた。講演者7名、参加者約70名であった。講演後、1人1分の持ち時間でポスターセッションのショートサマリー発表が行われた。ポスターセッションは同大学の体育館で行われた。講演のないポスター専用時間が設けられ、様々な分野の参加者が第四紀学会関連ブースの前にも現れ、第四紀学の成果を公開する絶好の場となった。講演者数24名。なお、この講演要旨は次の学術大会の講演要旨集の中に転載する予定である。
- (3)1997年学術大会の第2報と要旨集原稿の書き方、締切等の案内を、第四紀通信4巻2号に掲載した。オーラル発表時間は2分延長して1人12分

(質問時間を除く)とし、スライド、OHP枚数は従来通り8枚に制限した。ポスターセッションは固有の時間を設けることにした。

5. 企画

- (1)第4回第四紀学会講習会を5月17日~18日に、テーマ「遺跡の環境と生業の復元I 植物遺体群を調べる」(講師:鈴木三男・南木睦彦・岡田康弘・辻誠一郎)で、青森県津軽平野および青森県三内丸山遺跡体験学習館で開催する。第1日目はバス巡検(津軽平野の最終氷期・後氷期の泥炭層・埋没林など)、第2日目は三内丸山遺跡見学と体験学習館にて木材・大型植物遺体群実習を行う。募集人数は50人程度で、参加費用は1万円の予定。
- (2)第5回講習会を10月中・下旬に、テーマ「遺跡の環境と生業の復元II 動物遺体群を調べる」(講師:西本豊弘・樋泉岳二)で、青森県三内丸山遺跡体験学習館で開催予定。

6. 会報

- (1)第四紀通信4巻2号を3月31日付けで発行した。
- (2)会報委員として奥村晃史会員を委嘱した。
- (3)奥村会報委員により作成された第四紀学会のホームページ(案)を検討した。一部修正の上、学術情報センターで公開することとした。

7. その他

新旧合同幹事会を6月28日と7月19日に開催する。

桑原 徹 博士の逝去を悼む

本学会元会員の桑原 徹 博士は、1997年2月28日、多発性脳梗塞のため逝去されました。1985年に脳梗塞で倒れ、以後、実に11年半にわたる長い闘病生活の末でありました。享年65歳でした。

桑原先生は、1932年東京に生まれ、名古屋大学理学部地球科学科を1955年に卒業、同大学院を経て、1964年名城大学工学部助教授に迎えられました。1976年には名古屋大学から理学博士の学位を授与され、1978年に教授に昇任されました。研究や学内の仕事など多忙を極める中で発病され、一時復職されたものの、病状悪化により、1991年に退職されました。

先生の研究は、多方面にわたりますが、なかでも、伊勢湾・濃尾平野を中心とする第四紀の地史に関する研究、濃尾平野の地下地質と地盤沈下の研究などに、大きな業績を残されました。

地史に関する研究では、「濃尾盆地と傾動地塊運動」(1968, 第四紀研究)および「伊勢湾--伊勢湾を中心とする沈降盆地と西南日本のNeotectonics--」(1969, シンポジウム「海岸平野」)など、この地域の地質構造的枠組みを規定した論文として、約30年を経た今日でもなお、その輝きを失っておりません。これらの研究が、現在、この地域の活断層研究などに引き継がれております。

また、濃尾平野の研究では、地下地質の解明はもとより、地下水の過剰揚水が地盤沈下の原因であることを指摘され、地下水の適正利用を図るべく、行政に働きかけを重ねてこられました。その成果は、共同研究者とともに、「濃尾平野の地盤沈下と地下水」(1985, 名大出版会)に集大成され、濃尾平野の研究者にとって、必読文献となっております。

桑原先生は、大変気さくな方で、人の意見をよく受け入れ、それらをまとめていく点で、抜群の能力をおもちでした。第四紀学会においては評議員、大学にあっては協議員などの重要な役職、また行政機関の各種委員を歴任され、土木や建築など分野の異なる研究者や行政担当者の意見を、柔軟かつ高い識見をもってまとめてこられました。

このように、学問的にも、社会的にも、多方面にわたる活躍をなさった桑原先生の逝去は、大きな損失であります。同時に、研究のさらなる展開をという時に、病に倒れたご自身の無念さもいかにばかりであったかと拝察する次第です。

先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

なお、ご遺族は、二人のお子さんはすでに独立され、洋子夫人が [] にお住まいです。
(吉野道彦・牧野内 猛)

■ 第四紀通信事務局から

第四紀学会のホームページ検討委員会では、第四紀学会のホームページの作成を検討してきましたが、広島大学・奥村晃史委員の努力により、原稿案を学術情報センターにアップロードすることができました。アドレスは

<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/qr/>

です。まだ関連情報など不足しておりますので、ぜひ会員皆様のアドレスをお知らせ下さい。

第四紀通信事務局：九州大学大学院 比較社会文化研究科 小池 裕子

TEL & FAX 092-726-4847

E-mail koikegsc@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp